

新城市民病院での研修を終えて

名古屋第一赤十字病院研修医 1 年目

このたび、4 週間に渡って新城市民病院で地域研修をさせていただきました。総合診療科の先生方をはじめとして、病院の職員方、新城市の訪問看護師や助産所職員の方々には大変お世話になりました。お忙しい中、ご指導賜りましてありがとうございました。

地域の中核を担う病院の総合診療科では、都市部の大きな病院とは異なり、一般的な主訴を持つ患者も多く診療しており、自身の研修病院では救急外来業務を多くさせてもらっている自分にとって、勉強になる毎日でした。総合診療科の先生方は、問診・身体所見・各検査所見から科学的根拠をもとに診断・治療をしており、その姿勢は **general doctor** のあるべき姿であると感じました。毎日の振り返りでは、その日に経験した症例での疑問点について、科学的根拠や先生方の経験談などをご教授いただきました。今後は、日常の診療で疑問点が生じた際には、一度立ち止まって科学的根拠を考察することを実践していきたいと思います。また、診療においては「エビデンス」だけでなく、「経験」もとても重要な要素であると思います。総合診療科の先生方は、患者の訴えのニュアンスや症状の出方などから、経験的に診断を推測する能力にも長けてらっしゃいました。私はまだまだ未熟で経験もほとんど無いので、今後 1 つでも多くの症例を経験できるように残りの研修医生活を邁進していきたいと思います。

また研修期間中には、作手診療所、しんしろ助産所、訪問看護、訪問リハビリ、介護老人保健施設での研修もさせていただきました。訪問看護、かかりつけ医の往診、訪問ヘルパーなどの複数のサービスを利用しながら自宅での生活をされているケースも多く、地域での医療サービスのニーズが大きいことを改めて実感しました。それに対して、地域ではサービスを提供する人材が逼迫していることも痛感しました。このような現状で、各医療職間でのコミュニケーションが重要であると思いました。新城市ではネット上の情報共有システムを用いており、訪問看護師がいち早く気付いた変化を、かかりつけ医に共有し、次の往診日を予定よりも早める対応を取っている場面もありました。たとえ一人の患者であっても、十分な医療サービスを提供するためには、大勢の職員が必要であり、各職種の歯車がしっかりと噛みあって回転することで成り立っていることを再認識しました。また、どの歯車も必要不可欠であることを実感しました。

最後に、名古屋の研修病院では経験することのできない研修をさせていただいた、総合診療科医の先生方をはじめとした新城市民病院の職員方、外部研修先の皆様に重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。